



南町小だより

つよく かしこく あたたかく

平成29年 1月10日

校長 福田 俊彦

生きている言葉に

校長 福田 俊彦

あけましておめでとうございます。新年を迎え、皆様にとって幸多き年となることを祈念申し上げます。保護者、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜っております。本年も、南町小学校の子供を「みんなの子供」として見守っていただけますようお願いいたします。

さて、18日間という今年度の冬休み。子供たちはいろいろな体験をしたのではないのでしょうか。自然との触れ合い。自然の美しさ、厳しさなどを感じたこともあったでしょう。歴史、文化との触れ合い。今の日本を創り上げてきた出来事や人物の働き、日本独自に引き継がれてきている行事、諸外国から取り入れたことなど、新たな気付きに心を動かされたこともあったでしょう。そして、人との出会い。年末年始だからこそという出会いもあったことでしょう。

数年前の出会いで、今でも印象深い光景があります。ある駅のホームでのことです。小さなお子さんを前に抱え、乳母車を押している母親が電車を待っていました。特別の光景ではありません。どこにでもありそうな光景です。その親子連れが乗車する電車は、それほど混んでいませんでしたが、空席はありませんでした。その時、一人の若者がその母親に声をかけました。これも出会うことができる光景でしょう。私の心に残ったのは、その時のやりとりの言葉なのです。

「どうぞ。」

「ありがとうございます。」

「乳母車はここでいいですか。」

「はい。」



これらの短い言葉の繋がりに、とても大きな心の動きを感じたのです。相手の心の動きを互いに受け止めていると思えたのです。自然な流れの中でのようなやりとりだったからでしょうか。そして、最後の「はい。」に、もう一回り大きな「ありがとう。」の気持ちがのっかっているようでした。心が通っている言葉、生きている言葉、そのものです。

同じ言葉でも、そのやりとりの中での場面の状況、相手への心の寄せ方、表情や視線などでその感じ方を大きく変えていきます。でも、この自然な流れの中での二人のやりとりに接することができた私は、この若者から、この母親から、清々しい雰囲気共有させてもらいました。

その日、その時間、その場所で、二人が出会うことは偶然なことだったでしょう。しかし、その出会いが周りにもたらした清々しい雰囲気を考えると、必然であったようにも思えるのです。そこに居合やすることができた私にとっても必然のことでしょう。このような出会いが、私の気付かないところで、いろいろな形で生まれ、清々しさをその場の方々に共有していることと思います。

南町小学校の子供たちにも、このような心に残る光景との出会いがあり、仲間に伝えたいこととして心に刻まれていることがあると思います。心を温かくする光景を、仲間と共に共有する南町小学校にしていきたいと思います。本年も宜しく願いをいたします。